

ASEAN グローバルプログラム に参加して

牧野航大
Koudai MAKINO
機械システム工学科 2年

1. はじめに

2019年8月27日から9月5日にかけて ASEAN グローバルプログラムに参加し、ベトナムの首都であるハノイとシンガポールに滞在して日系企業見学、ハノイ工業大学の学生とのPBL、南洋理工大学講義参加や研究室見学、両国の現地企業の見学、シンガポールでのビジネスパーソンによる講演や交流会に参加できた。今回の ASEAN グローバルプログラムに参加した主な目的は、現地企業訪問、現地学生とのPBL、ビジネスパーソンとの交流会を通じて、現地の文化、IT企業が発展していく上で求められる技術などを、現地に訪問して自分の目で見て学ぶことであった。具体的なプログラム日程・内容は下記の表1に示す。

表1 日程表

日程	内容
8月27日	オリエンテーション
8月28日	栄光堂, Rikkei soft 見学
8月29日	ハノイ工業大学学生と PBL 開始
8月30日	PBL 発表
8月31日	ハノイ観光
9月1日	シンガポール着 WASABI CREATION 講演会
9月2日	南洋理工大学での講義参加
9月3日	Google 見学, ビジネスパーソンとの 交流会, 加藤氏の講演会
9月4日	自由行動, シンガポール出国
9月5日	帰国

2. 参加目的

私は海外に興味を持っており、これまでに海外に行きたいと思っていたが実際に行動に移せずにいたため、今回このようなプログラムがあることを知り、すぐに参加を決めた。私がこのプログラムに参加した目的は2つあった。1つ目は、将来、自分が海外で働きたいと思っているので実際に海外に滞在して様々な国々の文化や価値観に触れ、市場経済を学び世界で活躍できる技術者になるために自分は今から何をすべきか見つけ直すことである。2つ目は、共通言語である英語を使ってコミュニケーションを取ることで、実際に、現地の人々と英語で交流することによって、自分の持っている英語力で意志や表現を伝えられるのかを確かめ、交流することで新たな考え方が理解できると思った。

3. 研修内容

ベトナムでは現地企業訪問、ハノイ工業大学、ハノイの博物館に行きシンガポールでは南洋理工大学、ビジネスパーソンとの交流会があったが、そのなかでハノイ工業大学の訪問で得られたものが多いと感じたため、そのPBLについて以下で詳しく述べる。

PBL 活動は、ベトナムのハノイ工業大学でベトナム人学生とPBL活動を2日間行った。今回は「栄光堂の塩レモン飴をベトナム市場で大ヒットさせる」をテーマとして、日本人5人に対してハノイ工業大学の学生2人が加わり、チームを作って活動を行った。交流し始めた頃、日本人とベトナム人の考え方は真逆であり意見が合意せず、さらに英語を使ってコミュニケーションを取らなければならないという非常に厳しい状況であった。英語があまりうまく話せなくて自分の考え方が伝わらなかったり、ベトナム人学生の意見を聞き取れなかったりして意志疎通がうまく行えなかった。しかし、ジェスチャーや片言の英語で必死に伝えてしていると徐々に自分の意志を伝えられるようになり、ベトナム人学生の意

見などを英語で聞き取れてきた。1日目は、ハノイ工業大学内のキャンパス内で今回のテーマについてのアンケートを200人近くの学生から収集することができた。収集したアンケート結果を集計すると、事前学習で立てた仮説とは異なる結果となった。予想外の展開であったため戸惑ったが、その結果についてチームで意見を出し合い、新たな仮説を立ててアンケート内容を修正した。またホテルに戻り日本人だけで議論や中間発表を行った。2日目もハノイ工業大学にて、1日目に修正したアンケートを使い200人近く収集することができた。時間がない中で追加のアンケート調査を行い、グラフや文章をまとめてプレゼン資料を作った。大学では英語でプレゼンを行い、ホテルでは鈴木栄光堂の現地の社長に対して最終プレゼンを行った。プレゼンの発表の後、厳しいアドバイスをもらい少し落ち込んだが、そのアドバイスは的確であり、今後プレゼンを行った。資料を作る上で役に立つものであった。

もう一つ今回このプレゼンを通じて大きく成長を感じたものがあった。それは積極性である。1番初めのプレゼンでは、みんな恥ずかしがり発表する役を他人に押し付け他人まかせで1人だけが発表していた。しかし、このベトナム人学生とのPBLを終

えると、最終プレゼンでは全員がマイクを持ち積極的に発表した。1番初めのプレゼンと最終プレゼンを比べると、積極性が大きく成長していると感じ取れた。また英語で自分の意見を伝えることの難しさと楽しさ、ベトナム人と日本人との間で生まれる考え方の違いを学べた。そして、今回のPBLのようにチームを組んで全員で協力して1つの目標を達成させる楽しさに気づいた。

4. おわりに

今回、このASEANグローバルプログラムに参加して、多くのことを学び、肌で感じて、自分に足りないものや改善すべきところを知り、自分自身を見直すきっかけとなった。そして今回の経験から英語の大切さを改めて実感した。ベトナム人学生は日本人と同様に英語は第2言語であるが、ネイティブのように英語をうまく話せているように思えたのに対して、自分は恥ずかしく何もしないで聞き取ることや話すことができず、差を感じてとても悔しかった。海外では世界共通言語の英語が重要で、世界の人とつながる可能性を最も広げてくれる言語だと改めて感じた。これまで英語を学習してきたが、話す練習をしておらず会話することができなかったので、これから海外に行き現地の人と英語で話し積極的に会話しようと思った。また、ハノイ工業大学や南洋理工大学を訪問しても気づいたことは、講義などを見ていると学生達は積極的に手を挙げて発表していて、与えられた問題に対して他の人と相談して解いている。日本では先生や教授の話の聞いているだけだが、海外のような他人と相談して問題を解決していく能力も必要だと思った。ハノイ工業大学で行ったPBLにおいて、グループで問題を解決していった経験は、将来の仕事をしていく上でとても参考となる機会だと思う。今回のプログラムに参加できたことに心から感謝します。



写真 PBL での英語発表